

一橋大学附属図書館概要



平成14(2002)年度
一橋大学附属図書館

目次

1	沿革	1
2	歴代館長	3
3	附属図書館 整備・改善の歩みと今後の課題	4
4	組織	6
4.1	組織機構図	6
4.2	職員の配置	6
5	施設	7
5.1	概要	7
5.2	建物	7
5.3	閲覧座席数，収容可能冊数，床面積	9
6	主な文庫・コレクション	10
7	オンラインジャーナル/データベース，CD-ROM一覧	14
8	電算化・電子化	16
8.1	経緯	16
8.2	附属図書館業務システム/電子アーカイブシステム構成図	17
8.3	一橋デジタルアーカイブス(HDA)計画	18
9	附属図書館出版物	19
10	公開展示	20
11	統計	21
11.1	所蔵状況	21
11.2	利用状況	22
11.3	経費	23
12	開館状況	24
12.1	開館時間	24
12.2	休館日	24
12.3	開館日数	24

本概要に掲載された文章，写真，図版等の著作権は，特記あるものを除いて，すべて一橋大学附属図書館に属します。

一橋大学附属図書館からの許諾を得ずに，著作権法の定める範囲を超えて，本概要からの引用，複写等をおこなうことは，禁止されています。

1 沿革

商法講習所時代	
明治 8 年	森有禮，商法講習所を私設し，銀座尾張町2丁目に開業，
明治 9 年	木挽町10丁目に移転。
明治 12 年	校則中に教科書貸与取扱のことが規定される。
東京商業学校時代	
明治 17 年	商法講習所は農商務省の直轄となり，東京商業学校と改称。
明治 18 年	文部省の所轄となり，東京外国語学校，同校所属高等商業学校を併せて，東京商業学校と称し，神田区一ツ橋通町1番地，旧東京外国語学校舎に開設。図書室(書籍庫17.7坪，閲覧所15.75坪)。
高等商業学校時代	
明治 20 年	高等商業学校と改称。
明治 27 年	図書館新築なる(67.22坪)。
明治 30 年	図書館主幹の制度を設け，奈佐忠行教授が初代主幹となる。
東京高等商業学校時代	
明治 35 年	東京高等商業学校と改称。
明治 41 年	木造2階建新図書閲覧所竣工。
大正 6 年	御大典記念図書館竣工(書庫鉄筋四階建155坪，事務室，閲覧室，木骨煉瓦張197.7坪)。
東京商科大学時代	
大正 9 年	東京商科大学となる。
大正 10 年	ギールケ文庫入手。
大正 11 年	メンガー文庫入手。
大正 12 年	関東大震災により本校もかなりの損害を受けたが，図書館は一部の破壊のみで蔵書は消失を免れる。
大正 13 年	石神井予科仮校舎群中に図書館予科分館(木造平屋85坪)を設ける。
大正 14 年	一ツ橋校舎の復旧工事なり，研究室1階の一室に雑誌部分室を設ける。
大正 15 年	官制上，本学に附属図書館が設置される。
昭和 2 年	専門部及び養成所，東京府北多摩郡谷保村(現:国立市)に移転，仮校舎内に図書館専門部分室を設ける。
昭和 5 年	谷保村に附属図書館竣工(鉄筋建坪728坪，延1,844坪，書庫五階延520坪)10月開館。新分類表(現:国立本館分類表)を作成。
昭和 11 年	東京府北多摩郡小平村に図書館予科分館(鉄筋平屋建—書庫および教官閲覧室80坪，木造平屋建—事務室および閲覧室。126坪)が落成，四月開館。予科分館新分類表(現:小平分館分類表)を作成。
昭和 12 年	学生のために初めて図書館利用案内を印刷配布。
昭和 18 年	神戸商大，大阪商大および本学による三商大図書館協議会成立。
東京産業大学時代	
昭和 19 年	東京産業大学と改称。 戦時緊急の要に応じ，専門部校舎，予科校舎を軍部に貸与し，専門部分室，予科分館の図書を本館へ移動し，貴重書を長野県伊那町および辰野町へ疎開。
東京商科大学時代	
昭和 22 年	東京商科大学と改称。
一橋大学時代	
昭和 24 年 5 月	国立学校設置法が公布され，一橋大学となり，商学部・経済学部・法学社会学部の3学部が置かれる。 附属図書館が設置され，事務長また本館に総務・洋書・和漢書・閲覧の4係，および分館に図書係が置かれる。
昭和 28 年 9 月	夜間開館を開始。
昭和 30 年 10 月	本学創立80周年記念展示会に，本学の歴史資料及び貴重資料を展示。
昭和 32 年 4 月	大閲覧室内に接架室を設置。
昭和 35 年 10 月	創立85周年記念式典の一環として「一橋大学歴史資料展示会」を開催。
昭和 37 年 5 月	小平分館の夜間開館実施。

昭和38年	2月	大学院学生読書室を設置。
	9月	書庫増築工事開始。
昭和39年	3月	本館第2書庫竣工。
昭和44年	4月	小平分館新築建物完成(鉄筋2階建延1580m ²)。
	9月	小平分館開館。
昭和45年	9月	大閲覧室の2階に新着雑誌室を設置。
昭和47年		文部省MARC目録カードの導入始める。
昭和49年	9月	パート・フランクリン文庫入手。
昭和50年	10月	本学創立百周年記念行事の一つとして「学園史資料及び貴重図書の展示会」を開催。 「一橋大学附属図書館史」刊行。
昭和52年	3月	図書館貴重書書庫(現社会科学古典資料センター建物)竣工。
	9月	一橋大学創立百年記念募金図書購入委員会の設置。
昭和53年	4月	学内共同教育研究施設として社会科学古典資料センターが発足、館長がセンター長を併任。 事務部課長制を設置し、雑誌係を新設する等の附属図書館事務分掌規程の全面改正。
昭和54年	3月	小平分館新書庫竣工。
	7月	一橋大学附属図書館報「鐘」創刊号刊行。
昭和55年	4月	附属図書館新館(現雑誌棟東側部分)竣工(3階建, 870m ²)。
	9月	附属図書館新館開館。
昭和56年	6月	情報処理センターホストコンピュータシステムによる、新館閲覧業務の電算処理を開始。
昭和58年	3月	本館第3書庫竣工。
昭和60年	4月	社会科学系外国雑誌センター発足。
昭和63年	4月	附属図書館事務部の課名を、整理課は情報管理課に、閲覧課は情報サービス課に変更。
平成元年	7月	東京西部地区大学図書館相互協力連絡会、外国新聞分担保存協定を作成し、実施。
平成3年	2月	図書館業務電算システム導入。 附属図書館内に特定EC資料センターを設置。
	4月	国立本館において閲覧業務の全面的な電算処理を開始。
	6月	図書館業務電算システムの愛称を「HERMES」に決定。
	7月	書誌・蔵書データの電算入力を開始。
平成4年	4月	学術情報センターのILLシステムに参加。
平成5年	4月	「図書館増改築専門委員会」、図書館増改築案をとりまとめる。
	5月	英国図書館への文献複写依頼サービス開始。
	10月	土曜開館開始。
平成6年	5月	EU(欧州連合)成立にともない、EC資料センターをEU資料センターに改称。
平成7年	2月	如水会の援助により、目録所在情報検索システム「JOINT」を導入し、ネットワーク検索サービスを開始。
	4月	相互貸借業務を全国国立大学および大阪市立大学間に拡大。
	7月	本学の独自分類表の凍結と日本十進分類法に基づく新しい図書配架コード表を採用。
平成8年	1月	図書館業務電算システム(HERMES)を更新。
	9月	附属図書館第1期増改築工事竣工。
	10月	附属図書館新館開館。 図書館公式webホームページを開設。
平成9年	3月	webによるネットワーク目録所在情報検索サービスを開始。 webによるネットワークCD-ROMデータベース検索サービスを開始。
	4月	小平分館を閉鎖し、「小平図書収蔵庫」と名称変更。
	10月	東学習図書室開室。
平成10年	4月	小平キャンパスでの授業停止に伴い小平図書収蔵庫を無人化。 附属図書館閲覧規程を廃止し、附属図書館利用規則及び同細則を制定。
	11月	附属図書館委員会の下に附属図書館将来計画検討小委員会を設置。
平成11年	2月	旧館(目録室・カウンター部分建物)及び第1書庫の解体工事始まる。
	4月	HERMESシステムによるイノベーション研究センター資料室目録業務電算化を開始。
	7月	図書館の将来計画を検討するための利用者アンケートを実施。

平成12年 1月	図書館業務電算システム(HERMES)を更新。
3月	附属図書館第2期増改築工事竣工。
4月	HERMESシステムによる国際企業戦略研究科図書室の業務電算化を開始。
10月	附属図書館新本館開館。新館を雑誌棟に改称。 目録所在情報検索システム(JOINT)を更新し、サービスインタフェースをwebに一元化。
平成13年 3月	一橋デジタルアーカイブス(HDA)システムを導入。
4月	授業期の開館時間拡大(夜間22時まで、日曜・祭日開館)。
11月	公開展示室開室。記念企画展「一橋大学への歩み」を開催。 一橋デジタルアーカイブス(HDA)公開。
平成14年 4月	CD-ROMサーバによるネットワークデータベース検索サービスを終了し、オンラインデータベースに一本化。
5月	情報処理センターと共同で、無線ネットワークによるオープンアクセスサービス実験開始。

2 歴代館長

初代	高垣 寅次郎	大正15年11月29日 ~ 昭和11年2月10日
第2代	本間 喜一	昭和11年2月10日 ~ 昭和12年3月5日
第3代	吹田 順助	昭和12年3月5日 ~ 昭和19年8月11日
第4代	山田 雄三	昭和19年8月11日 ~ 昭和21年12月1日
第5代	村松 恒一郎	昭和21年12月1日 ~ 昭和25年5月18日
第6代	山口 茂	昭和25年5月18日 ~ 昭和26年6月18日
第7代	加藤 由作	昭和26年6月18日 ~ 昭和28年7月14日
第8代	村松 恒一郎	昭和28年7月14日 ~ 昭和35年3月31日
第9代	高橋 泰藏	昭和35年4月1日 ~ 昭和36年4月1日
(事)	高橋 泰藏	昭和36年4月1日 ~ 昭和36年4月16日
第10代	森田 優三	昭和36年4月16日 ~ 昭和40年3月31日
第11代	馬場 啓之助	昭和40年4月1日 ~ 昭和43年3月31日
第12代	板垣 與一	昭和43年4月1日 ~ 昭和46年3月31日
第13代	小泉 明	昭和46年4月1日 ~ 昭和50年8月1日
(事)	小泉 明	昭和50年8月1日 ~ 昭和50年9月10日
第14代	増淵 龍夫	昭和50年9月10日 ~ 昭和53年9月9日
第15代	木村 増三	昭和53年9月10日 ~ 昭和56年9月9日
第16代	大川 政三	昭和56年9月10日 ~ 昭和59年9月9日
第17代	川井 健	昭和59年9月10日 ~ 昭和61年11月30日
第18代	森田 哲彌	昭和61年12月1日 ~ 平成元年6月15日
第19代	外池 正治	平成元年6月16日 ~ 平成3年6月30日
第20代	宮川 公男	平成3年7月1日 ~ 平成6年6月30日
第21代	中村 政則	平成6年7月1日 ~ 平成9年6月30日
第22代	石 弘光	平成9年7月1日 ~ 平成10年11月30日
第23代	安藤 英義	平成10年12月1日 ~ 平成13年11月30日
第24代	池間 誠	平成13年12月1日 ~

(事) = 事務取扱

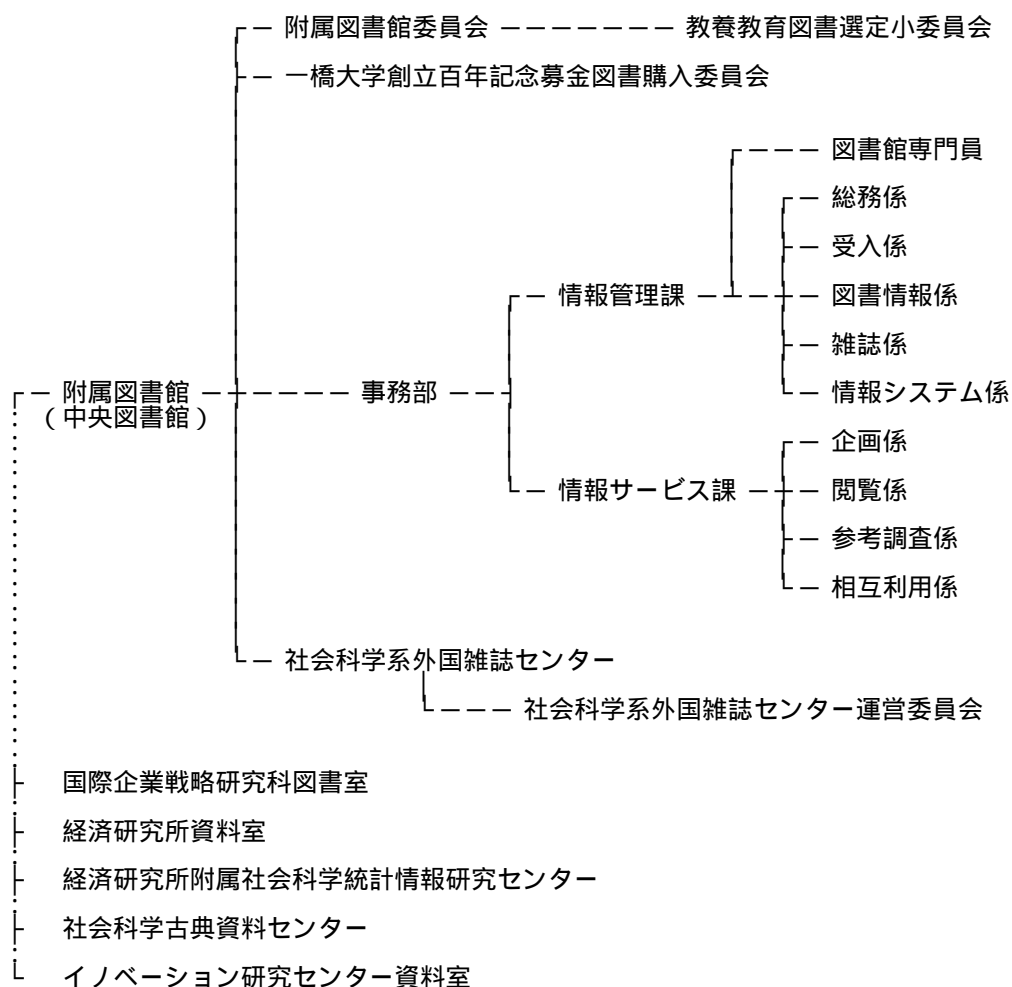
3 附属図書館 整備・改善の歩みと今後の課題

		整備・改善の歩み	
		～昭和63年度	平成元～7年度
組織・機構		● 附属図書館が設置され、事務長また本館に総務、洋書、和漢書、閲覧の4係、及び分館に図書係を置く (昭24) ● 部課長制設置、雑誌係を新設 (昭53) ● 社会科学系外国雑誌センター発足、雑誌第二係を新設、雑誌係を雑誌第一係に改称 (昭60) ● 事務部の課名を、整理課は情報管理課に、閲覧課は情報サービス課に変更 (昭63)	● 雑誌第一係と雑誌第二係を雑誌係に統合、参考調査係を新設 (平6)
図書館サービス	総合	● 夜間開館を開始 (昭28) ● 学園史資料及び貴重図書の展示会を開催 (昭50) ● 図書館報「鐘」の刊行始まる (昭54)	● 土曜開館開始 (平5)
	参考調査相互利用	● 神戸商業大学、大阪商科大学および本学による三商大図書館協議会(現三大学図書館協議会)成立 (昭18) ● 東京西地区大学図書館相互協力連絡会に加盟 (昭45) ● 館内に複写機を設置 (昭58,62)	● NACSIS-ILLシステムに参加 (平4) ● 英国図書館への文献複写依頼サービス開始 (平5) ● 院生用複写機を1台増設 (平6) ● 相互貸借業務を全国国立大学および大阪市立大学間に拡大 (平7)
	電子化	● 文部省MARC目録カードの導入 (昭47) ● 新館閲覧業務の電算処理開始 (昭56)	● 閲覧業務の全面的な電算処理開始 (平3) ● 書誌・蔵書データの電算入力開始 (平3) ● 館内ネットワークCD-ROMシステムの運用開始 (平6) ● telnetによるネットワークOPACサービス (平6～12) ● 電子計算機システムを更新 (平7)
資料		● 札差関係文書受贈 (大4) ● ギールケ文庫入手 (大10) ● メンガー文庫入手 (大11) ● 軍配組合関係史料受入 (昭19) ● 三浦文庫受入 (昭26) ● パート・フランクリン文庫入手 (昭49) ● 創立百年記念募金による図書購入始まる (昭和52) ● 書庫の撤除去・埃清掃作業を実施 (昭62～63)	● Journal of the House of Lords, vol. 1～217. With Indexes Calendars and Rolls of Parliament (英国貴族院日誌)購入 (平元) ● マイクロフィルム版国内主要新聞集成(明治～戦中・戦後期)購入 (平5) ● マイクロフィッシュ版国際法研究文献コレクション購入 (平6)
施設・設備		● 小平分館新築建物開館 (昭44) ● 第2書庫竣工 (昭39) ● 図書館貴重書書庫(現:社会科学古典資料センター建物)竣工 (昭51) ● 新館(現:雑誌棟低層部)竣工 (昭55) ● 第3書庫竣工 (昭57)	● 3期計画による図書館増改築案が作られる (平5)
職員研修		● 図書館職員著作権実務講習会 ● 大学図書館職員長期研修 ● 西洋社会科学古典資料講習会 ● 総合目録データベース実務研修	● 第12回大学図書館研究集会を開催 (平3) ● 図書館職員著作権実務講習会 ● 漢籍整理長期研修 ● 西洋社会科学古典資料講習会 ● 総合目録データベース実務研修 ● 目録システム講習会 ● 情報ネットワーク担当職員研修
規則・その他		● 貴重資料の利用に関する暫定要領制定 (昭52) ● 図書寄託取扱規程制定 (昭53)	● 特定EC資料センターを設置(EU成立後、EU資料センターと改称) (平2) ● 附属図書館における一般市民等の利用への対応要項を作成 (平6) ● 図書配架コード表を採用 (平7) ● 図書館資料の不用決定及び廃棄に関する処理要領案を制定 (平7)

		整備・改善の歩み	今後の課題
		平成8年度～	
組織・機構		- 和書係と洋書係を図書情報係に統合 (平9) - 情報システム係、企画係を新設 (平9) - 小平分館廃止 (平9) - 附属図書館将来計画検討小委員会設置 (平10～11) - 相互利用係を新設 (平11)	- 業務見直しと事務組織改編 - 情報公開制度への対応 - 外部評価の実施 - 法人化への対応
図書館サービス	総合	- 図書館サービスに関するアンケートの実施 (平11) - 開館記念図書館公開展示の開催 (平12) - 学生証と図書館利用証の統一(学部学生) (平12) 「利用者の声」箱の設置 (平12) - 図書館と利用者との懇談会を開催 (平12) - 平日開館時間の拡充, 日曜・祝日開館開始 (平13) - 公開展示室開室, 企画展・常設展開催 (平13～)	- 開館日数のさらなる拡大 - 地域図書館との連携強化 - 四大学連合への対応 - 企画展示の学内連携 - 一橋アーカイブシステム(仮称)の構築
	閲覧	- 入退館管理システムを導入 (平8) - 東学習図書室開室 (平9) - 自動貸出装置の導入 (平13)	- サービス資源配分の見直し - 地域への利用サービス拡大 - 東学習図書室の運営見直(AV, LLとの連携)
	参考調査 相互利用	- 館内複写機を設置 (平8,9,12) - 研究・学習支援セミナー開始 (平12) - 外部文献複写のオンライン受付開始 (平13) - データベース検索サービスをオンラインに一本化 (平14)	- 学習・教育・研究に沿ったガイダンスの実施 - 情報リテラシー教育の強化 - 研究・学習支援セミナー専用端末の整備 - オンラインデータベースの充実
	電子化	- 図書館ホームページ開設 (平8) - webによるOPACの検索サービス開始(平8) - webによるCD-ROM検索サービス実施 (平8～12) - 電子計算機システムを更新 (平11) - 一橋デジタルアーカイブス(HDA)計画開始 (平12) - 四大学連合横断OPACサービス開始(平13) - 一橋大学webサイトサーチ(学内検索エンジン)サービス開始 (平13)	- 遡及入力 of 推進 - 国立情報学研究所新目録所在情報システムへの対応 - 情報処理センターとの機能連携強化 - 資料保存修復データ管理機能の強化 - 各サーバ機能の連携強化及びインタフェースの共通化 - HDAのコンテンツ充実 - ネットワーク上のセキュリティ強化
資料		- 電子ジャーナルの本格導入 (平12) - マイクロフィッシュ版フランス革命パンフレットコレクション購入 (平8) - フォースターコレクション購入 (平13) - 第3書庫3～4階の薫蒸 (平12) - 岡田家文書の購入受入 (平13) 「土屋喬雄文庫目録」を刊行 (平14)	- 図書費の安定的確保 - 受贈・購入した文庫の目録作成 - 電子ジャーナルの充実と冊子体購入の見直し - 貴重資料の選定と保存修復措置 - 徴害, 虫害等に対する継続的対策 - 学園史資料(手稿類等)の整理, 保存, 電子化
施設・設備		- 附属図書館新館(現:雑誌棟高層部)竣工 (平8) - 本館竣工 (平12) - マイクロ資料室, 貴重資料室の整備 (平12) - 本館地下1階集密書架設置 (平12) - 公開展示室の整備 (平13) - 研修セミナー室の整備 (平14)	- 第2書庫及び第3書庫の増改築による保存図書館機能の整備を目的とした第3期増改築計画策定 - 修復保存作業室の整備 - 電子化作業室の整備 - 書庫内湿度調整対策
職員研修		- 第18回大学図書館研究集会を開催 (平13) - 図書館職員著作権実務講習会 - 大学図書館職員長期研修 - 漢籍整理長期研修 - 西洋社会科学古典資料講習会 - 目録システム講習会 - ILLシステム講習会 - 情報ネットワーク担当職員研修	- 職員接遇研修の実施 - ネットワーク関係研修の推進 - 館内職員研修(情報リテラシー等)の実施
規則・その他		- 附属図書館利用規則及び同細則を制定(平9) - 貴重資料及び準貴重資料の指定基準定まる (平10) - 第19回EDCセミナーを本学で開催 (平10) - 社会科学古典資料センターとの共催で資料保存研修会を開催 (平10)	- 各種刊行物および広報手段の電子媒体への移行 - 大学広報一元化への対応

4 組織

4.1 組織機構図



4.2 職員の配置

平成14年5月1日現在

	定員内職員	非常勤職員	計	備 考
部長	1		1	
課長	2		2	
図書館専門員	1		1	
総務係	3		3	
受入係	3	1	4	
図書情報係	4	4	8	
雑誌係	3	2	5	
情報システム係	2		2	
企画係	2		2	
閲覧係	6	3	9	
参考調査係	2		2	
相互利用係	1	2	3	
合 計	30	12	42	定員内職員には助手5を含む

5 施設

5.1 概要

昭和5(1930)年、大学の前身である東京商科大学の国立キャンパス移転と共に建設された図書館は、国立西キャンパスの文字どおり中心に位置し、その時計台と大閲覧室は、今日においても一橋大学のシンボリック存在である。

建設当時の書庫収容力は35万冊と、当時としては有数の規模を誇っており、その後数次にわたり書庫の増設も行われたが、蔵書の増加はそれを凌ぎ、事務室を臨時書庫に転用しても追い付かない事態に至っていた。平成5(1993)年「大学改革推進委員会」傘下の「図書館増改築専門委員会」において、3期計画による増改築案が策定され、平成8(1986)年度に第1期計画分が、平成11(1999)年度に第2期計画分が実施された。

これにより、当面の収容力不足を解消するとともに、従来の閉架中心から100万冊規模の開架図書館へと、面目を一新したが、近い将来に予測される再度の収容力不足と貴重資料の保存機能強化が課題として残されており、これを解決するためにも、第3期計画の実現が求められている。

図書館施設関係略年譜

昭和5年6月	国立キャンパスに図書館(現:時計台棟)および第1書庫竣工。10月開館。
昭和39年3月	第2書庫竣工。
昭和52年3月	貴重書書庫(現:社会科学古典資料センター建物)竣工。
昭和55年4月	新館(現:雑誌棟低層部分)竣工。9月開館。
昭和58年3月	第3書庫竣工。
昭和60年12月	旧館(現:時計台棟)保全改修完了。
平成5年4月	図書館増改築専門委員会、図書館増改築案をとりまとめる。
平成8年9月	附属図書館第1期増改築工事; 新館改修(現:雑誌棟低層部分)及び増築(現:雑誌棟高層部分)竣工。10月開館。
平成9年10月	東2号館(3月竣工)内に東学習図書室開室。
平成11年2月	附属図書館第2期増改築工事に先立ち、旧館の一部および第1書庫を解体。
平成12年3月	附属図書館第2期増改築工事(本館新営)竣工。10月開館。 旧館を時計台棟に、新館を雑誌棟に改称。
平成13年11月	時計台棟内旧事務室跡の一部を公開展示室に改装竣工。
平成14年3月	時計台棟内旧事務室跡を名誉教授閲覧室、研修セミナールーム、修復保存室に改装竣工。

5.2 建物



大閲覧室(時計台棟2階)

【時計台棟】

- 昭和5(1930)年竣工
- 昭和60(1985)年、平成12(2000)年改修
- 地上2階地下1階、時計塔
- 図書館使用部分(*1)床面積1,983m²

2階	大閲覧室
1階	エントランスホール、公開展示室、館長室、会議室、名誉教授閲覧室、事務用目録室、修復保存室、研修セミナールーム
地階	書類保管庫

【本館】

- 平成12(2000)年竣工
- 地上4階地下1階，一部5階
- 延床面積6,693 m^2

5階	機械室
4階	マイクロ資料室，貴重資料室， 情報管理課事務室
3階	開架閲覧室， オープンアクセスフロア
2階	開架閲覧室，グループ学習室， オープンアクセスフロア
1階	メインカウンター，書庫入口， 参考資料コーナー， 情報検索コーナー， 情報サービス課事務室
地階	開架書庫，機械室



開架閲覧室(本館2階)

【雑誌棟】(*3)

- 昭和55(1980)年竣工
- 平成8(1996)年増改築竣工
- 地上5階地下1階
- 延床面積4,246 m^2

5階	開架閲覧室(製本雑誌)， グループ学習室， オープンアクセスフロア
4階	開架閲覧室(製本雑誌)， オープンアクセスフロア
3階	開架閲覧室(製本雑誌)
2階	開架閲覧室(統計類/白書/法令集)， オープンアクセスフロア
1階	開架閲覧室(新着雑誌/EDC資料)， 新聞コーナー，情報管理課事務室， 電子計算機室
地階	開架書庫，新聞コーナー，機械室



グループ学習室(本館2階)

【第2書庫】(*2)

- 昭和39(1964)年竣工
- 地上4層
- 延床面積846 m^2

【第3書庫】(*2)

- 昭和58(1983)年竣工
- 地上4層地下1層
- 延床面積885 m^2



新聞コーナー(雑誌棟1階)

【東学習図書室】

- 平成9(1997)年竣工(東2号館)
- 図書室床面積 $394m^2$

旧小平分校の国立統合移転にともない、旧小平分館の学習図書館機能も本館に集約された。一方、前期教育が行われる国立東キャンパスは、西キャンパスの図書館から離れているため、最寄りの学習場所として、講義棟の一室に図書館の分室を置くことになった。

配置資料は、参考図書、新聞、雑誌、AV資料が中心で、自習閲覧室的な性格が強い。また、AV及びLLの自習室も併設されている。



東学習図書室(東2号館3階)



マイクロ資料室(本館4階)



公開展示室(時計台棟1階)

*1： 時計台棟には、図書館施設のほか、教官研究室も配置されている。

*2： 昭和5(1930)年竣工の「第1書庫」は、現本館新築のため平成11(1999)年に解体された。しかしながら「第2書庫」「第3書庫」の呼称も長年定着しているため、書庫番号の改称はおこなわず、現在「第1書庫」は欠番となっている。

*3： 社会科学系外国雑誌センター館。

5.3 閲覧座席数，收容可能冊数，床面積

平成14年3月31日現在

	閲覧 座席 数	收容可能 冊数 (千冊)	床 面 積 (m^2)							
			延床面積	サービス用途				管理用途		その他
				閲覧	視聴覚	情報	その他	書庫	事務	
時計台棟	309		1,983	696			82	87	428	690
本館	143	881	6,693	2,493		105	129	1,202	835	1,929
雑誌棟	183	493	4,246	2,519		16	37	455	186	1,033
第2書庫		213	846					846		
第3書庫		272	885					885		
連絡通路等			201							201
東学習図書室	149		394	351	30				13	
合計	784	1,859	15,248	6,059	30	121	248	3,475	1,462	3,853

6 主な文庫・コレクション

青山文庫

1948年収蔵。洋書2731冊、和書49冊。保険法、商法、会社法。元東京商科大学教授、法学博士青山衆司(1871～1941)氏による寄贈図書。

ブレッシー文庫 (Library of Robert Brécy)

洋書1235冊。フランス労働運動。

中国方志叢書

台北(台湾)の成文出版社刊行の地方志リプリント版シリーズ。第1期分(河北省等28省の1212冊)、第2期分(浙江省等27省の1916冊)、第3期分(台湾省を中心にした3226冊)の第2部(2211冊)まで。

ドイツ紙幣コレクション

紙幣約450枚。

本学名誉教授、元学長の井藤半弥氏が、1922年11月より1925年3月までのベルリン留学中に収集したドイツ紙幣のコレクション。第一次大戦後の1922年半ばから1923年11月にいたる「天文学的」な通貨価値暴落期のマルク紙幣を実物で概観することができる。

海老池文庫

1975年収蔵。洋書1790冊、和書602冊。英文学。元本学社会学部教授海老池俊治(1911.8.27～1968.7.3)氏旧蔵の英文学書。

英国政府刊行物コレクション (The Controller's Library Collection of HMSO Publications, 1922-1977)

マイクロフィルム3628リール。

英国の議会各委員会文書(議事録を除く、いわゆる青書、白書等)および各省庁文書をも含む政府出版物の総集成。年代は、1922年(ソビエト連邦成立年)より始まり、1929～1932年の世界大恐慌、1939～1945年の第二次世界大戦、1945年の国際連合成立、1949年の北大西洋条約成立などの歴史を背景とした大英帝国時代から、現在(1972年)の英国に至るまでの長期にわたる英国の政治・経済の一次資料である。

本学では、19世紀に於ける委員会文書(青書)の大部分をも所蔵、さらに18世紀の資料についても集書中であるが、これらの資料群をさらに完璧なものに補完するものが本コレクションである。

ヨーロッパ現代史

1976年収蔵、洋書5229冊。

1910～40年代に刊行されたドイツを中心とするヨーロッパ各国の現代史文献。社会主義思想、ファシズムとその下での諸思想、オーストロ・マルキシズムの基本的文献などを含む。

フォースターコレクション (Theorie und Praxis des deutschen Rechnungswesens: Deutsches Rechnungswesens in der Tradition Eugen Schmalenbachs)

2002年収蔵。洋書872点、893冊。ドイツ会計学及び経営経済学。

フォースター(Karl-Heinz Forster, 1927～)元フランクフルト大学教授旧蔵資料であり、ドイツ会計学及び経営経済学の理論と実践を融合したもので、同分野の全領域を網羅的に、またドイツにおける倫理的、実務的会計学の歴史と現代の諸問題に関する資料等を収録したものである。

フランス革命パンフレットコレクション (French Revolutionary Pamphlets)

マイクロフィッシュ15850タイトル。

New York Public Library のTalleyrandコレクション、カンザス大学のMelvinコレクション、アメリカ議会図書館、英国図書館、その他の図書館および個人蔵書のコレクションの中から、A.Martin, G.Walter編の“Catalogue de l'histoire de la Revolution francaise”に掲載されているすべてのパンフレット15850タイトルをマイクロ化したもの。

フランス革命史資料コレクション (The Maclure Collec-

tion of French Revolutionary Materials, housed at the University of Pennsylvania Library)

1987年収蔵。マイクロフィルム372リール。

William S. Maclure によって収集されたMaclure Collection 2500件、1436冊のマイクロ化。

原資料の形態は、議事録、三部会陳述書、新聞、個人刊行物、演説、委員会報告、請願書、行政命令、法典、抗議書、年鑑など多岐に及ぶ。

うち67冊は1768年から1815年の間に刊行された39点の定期刊行物であり、その中には王室年鑑からアンチ・ジャコバン派の新聞まで含まれている。全体としては、17世紀革命勃発以前から19世紀までのフランス革命に関する世界最大級のコレクションである。

札差関係文書

35巻全38冊、完全揃本。江戸時代古文書。

「札差」は、江戸時代に旗本・御家人の代理として、その俸禄米を幕府の米蔵から受け取って委託販売するとともに、それら俸禄米を担保に金融を営んだ商人仲間のことであり、「札差事略」は、享保9(1724)年の札差仲間の成立以来約90年にわたる札差仲間に関する膨大な史料類をとりまとめ編纂したものである。

本学所蔵の「札差事略」は、旧札差和泉屋源兵衛家に伝存された札差会所備付本を伊藤賢氏から、また旧札差和泉屋清七家に伝存された一番組備付本を出口清七氏から、それぞれ大正4年に寄贈されたもので、江戸時代の社会経済史・商業史・法制史などの研究には欠くことのできない貴重な史料である。

藤井文庫

1983年収蔵。4370冊。古代ギリシャ哲学。

本学名誉教授藤井義夫(1905.1～1982.8.10)氏旧蔵の古代ギリシャ哲学研究書を中心とするコレクション。紀元前6世紀のイオニアの自然科学関係のものからヘレニズム、ローマ期にいたるまでの歴史、宗教、詩、演劇など広範な関連領域の研究書を含む。

深沢文庫

1991年収蔵。3,192冊。インド経済史。

故深沢宏教授(1931.10.9～1986.8)が、本学在職中に図書館のために選書した膨大な歴史文書群と補完的な関係にたつものであり、両者を併わせることにより、中世以降の西部インドの社会経済史の研究に必要な基本文献をほぼ網羅することになる。

英語(約2000冊)、マラーティ語(約250冊)、ペルシャ語(約250冊)を中心に、さらにサンスクリット語、ラージャスターニー語、ヒンディー語、ウルドゥー語などの文献からなる。その白眉はマラーティ語、ペルシャ語の歴史資料である。その中には、「シヴァージー時代の史料」(全11巻)、「インド史のペルシャ語史料」(全5巻)などの貴重な現地語史料が含まれている。その他にも、チャップリン、エルフィンストン、サイクス等の初期英国行政官の残した調査報告書、ボンベイ地誌、コルハプール藩王国に関する各種年次報告書等が、原本、マイクロフィルム、筆写ノートなどの様々な形態で集められている。

福田徳三博士手稿類

本学図書館には、福田徳三博士の手稿や講演記録、ゲラ刷りの類いが未整理で保管されている。これらの資料はもともと故杉本栄一教授、故山田雄三教授の研究室に置かれていたものであるが、図書館に移された経緯はつまびらかでない。現在、資料は16包にゆええられ2つの木箱に収まっている。包みの大半には中身を簡単に記した、井藤半弥先生あるいは杉本栄一先生によるものと思われるメモ書きがある。

手稿類は、バインダーにとじられているものや、ナンバーがつけられているものもあるが、大半はバラバラである。大版のノートや、福田徳三原稿用紙、あるいは三素書屋用紙と印刷された特製の用紙などが使用されている。なお、福田の恩師ブレントナー宛書簡がドイツ連邦文庫館のルージョー・ブレンターノ文書に、量は少ないがフックス宛書簡がチュービンゲン大学のフックス文書に保管されている。

「軍配組合」関係史料

第二次大戦期の華中において、軍票の価値を維持するために物

資の流通統制機関の役割を果たした中支那軍票交換用物資配給組合(略称「軍配組合」,昭和14(1939)年8月設立,昭和19(1944)年7月解散)の議事録・規則類・業務日誌・各種帳簿・各種調査資料など,当時極秘とされていた支那派遣軍関係文書類などがダンボール約100箱に収納されている。

この史料は,同組合から組合史の編纂,および「中支」経済研究資料として活用するよう本学教官に依頼があり,昭和19(1944)年に東京商科大学東亜経済研究所に送られたものである。

昭和20(1945)年3月当時の「軍配史編纂事業報告」(山口茂,天利長三の両氏から小堀保行氏宛手紙)等の記録によると,資料整理・軍配史編纂事業は,半ば本学の事業として行われたものと思われ,その結果は,目録カードや「軍配金資料目録」として残されているが,作成後50年以上経過しているため,目録規則,カード作成要領などは不明の部分が多い。

石原文庫

1938年収蔵。洋書4430冊,和書959冊。英文学。

東京高等商業学校卒業(明治44年)後,三井物産に勤務しロンドン駐在の長かった石原宗助(1887~1937.12)氏が在任中に集書したコレクション。主に英文学書が中心であるが,実務家らしく政治・経済関係の資料,さらには,哲学,宗教,科学,などの文献も含む。

企業史コレクション (Business and Industrial History)

1987年収蔵。洋書1518冊。

本コレクションは,当館が既に収集しているArmstrong氏旧蔵の社史文献コレクションを補完,充実する資料で,19世紀から20世紀にかけての英米独を中心とする代表的企業の創業記念出版物,企業家伝記,一般企業史関係などの文献を含む。

岸野文庫

1981~82年収蔵。洋書1366冊。アイルランド文学。

本学の卒業生(大正4年)で,詩人日夏耿之助の門下生であった岸野知雄(1901~1974)氏の旧蔵資料。アイルランド文学および関係文献のコレクションで,アイルランドの詩人イェーツの初版本の他,著作・研究書などを含む。

幸田成友博士旧蔵書

1951~1954年受入。

文豪幸田露伴の弟であり,大正11(1922)年から昭和15(1940)年まで本学で日本経済史を担当した幸田成友博士(1873.3.9~1954.5.15)が蒐集した「幸田文庫」の一部。武鑑類の和装本が大半を占め,大阪市史編纂に使用した写本・版本軸物類,江戸関係,米関係の写本版本類等約900冊。他に日欧交渉関係史料としてTitsinghなどの洋書十数点(貴重書)を含む。

なお,博士がやはり教鞭をとった慶応義塾には,「幸田文庫」として和装本496冊,洋書約2800冊が所蔵されている。

小坂文庫

1964~1975年収蔵。洋書156冊,和書413冊。国際法。

昭和10(1935)年に東京商科大学を卒業した政治家小坂善太郎(1912.1.23~2000.11.26)氏による寄贈書。国際法・国際政治・国際経済関係書。

旧陸軍経理学校旧蔵図書

終戦当時,旧陸軍経理学校図書館内に散乱,放置されていた図書の散逸を防止するために,昭和20(1945)年10月31付で陸軍経理学校校長より東京産業大学(本学の前身)長宛寄贈されたコレクション。この中には,同校の同窓生組織である若松会の名称を冠した若松文庫も含まれている。

経済学,経済史,歴史,戦争経済,戦争史等の他,各種調査資料を含む和,洋,漢籍4万冊(当時の受領書による)とされていたが,受領時は終戦直後の混乱期でもあり,実際の受領冊数は昭和42(1967)年1月の整理完了時まで確定できなかった。その確定受領総冊数は約27500冊であるが,陸上自衛隊等へ約10400冊返還しているので,本学受入数は約17100冊。

本コレクションは一般図書として本館分類されているが,「(若松会)旧陸軍経理学校図書整理目録」(図書原簿)が作成されている。

レキシス文庫

1915年収蔵。193冊。

如水会よりの寄贈図書。ウィルヘルム・レキシス(Wilhelm

Lexis, 1837.7.17~1914.8.24, ゲッチンゲン大学, 保険学)氏旧蔵書。

松本浩一郎記念図書

総冊数1091冊。インド関係。

明治35(1902)年高等商業学校本科を卒業後,三井物産に就職,ボンベイ在任中に29才の若さで客死した松本浩一郎氏の記念寄贈図書。本学同窓会ボンベイ支部より,明治41(1908)~大正3(1914)年にわたって寄贈される。寄贈者名は有志総代,間島与喜氏。

英国下院議会文書中のインド関連部分の系統的な収集(231タイトル,451冊)など,学術的に貴重な史料を含むほか,その他インドの歴史,地理,風俗,宗教などの一般書も多く含む。

明治文庫

4903冊。明治文化。

明治文化研究の重要性から,三浦新七(1877.6~1947.8.14)博士の旧蔵書を基礎として,明治憲法発布(明治23年)以前の刊行物を集書する目的で設置された文庫。以後も継続収集され,対象範囲も明治文化研究のための資料として,広く大正,昭和戦前期の刊行物まで含むコレクションとなっている。

三浦文庫

1951年収蔵。洋書5505冊,和書12028冊。西欧文化史。

元東京商科大学学長で,山形の両羽銀行の頭取でもあった三浦新七(1877.6~1947.8.14)博士の旧蔵書。諸民族の国民性・民族文化関係文献が中心。古代ユダヤ,ギリシャ・ローマ以来近代に至るヨーロッパ諸文化,および古代中国文化(卜辞,金文の著録,考釈を含む)等を含む。

洋書の部のみ目録が作成されている。

メラール文庫

1981年収蔵。洋書3904冊。保険関係。

ハンブルク大学の名誉教授であり,ドイツにおける保険学の最高権威者であるハンス・メラール(Hans Möller, 1907.3.3~1979.2.9)氏の旧蔵書。海上保険を中心に収集された「村瀬文庫」とは異なり,本コレクションは,私保険・社会保険の全種目に関わり,保険法,保険経済,保険経営,保険数学などの領域を含む網羅的コレクションである。

村松文庫

1982年収蔵,洋書624冊,和漢書4434冊。中国社会経済史。

村松祐次(1911.1.16~1974.3.6)氏旧蔵。近代中国経済を中心とした政治,社会にわたる和漢の基礎資料と第二次大戦前後に欧米諸国で刊行された中国関係の洋書,および中国関係蔵書目録等を含む。

村瀬文庫

1923年収蔵。洋書2511冊,和書479冊。保険,保険法。

元本学教授村瀬春雄(1871~1924.4.9)氏旧蔵の海洋保険を中心とする保険関係書。震災で一度焼失したが,氏の没後,村瀬博士記念事業会により旧蔵リストを基に再度収集,寄贈されたコレクションである。

中山文庫

1981~1982年収蔵。1502冊。理論経済学。

元本学教授中山伊知郎(1898.9.20~1980.4.9)氏の旧蔵書。総冊数は洋書1502冊,和書1132冊であるが,和書は一般図書として本館分類され,洋書のみが文庫として別置され目録も作成された。内容的には数理経済学や理論経済学の資料が大半を占め,手沢本も多い。

鳴海文庫

1977~1981年収蔵,4392冊。ロシア文学。

市井のロシア文学研究者鳴海完造氏(1899.8.10~1974.12.9)の旧蔵書。鳴海氏は東京外語露語科を卒業後,モスクワやレニングラードに滞在中(1927~1935)に,プーシキンをはじめとするロシア近代文学のほか,文献学研究書,ロシア史,社会思想史,民俗学関係書などを収集した。コレクションの特徴としては各種の初版本が多く,プーシキンの「エフゲニー・オネーギン」,「ボリス・ゴドノフ」,「プガチョフ反乱史」,また,ゴーゴリの「検察官」,「死せる魂」などがある。これらはソ連政府がロシア革命以前の刊行物として国外持ち出しを禁止していた珍品

である。さらには、内容は単なる友人への連絡文であるが、ツルゲーネフの自筆の手紙2通も含まれている。

西ドイツ労働総同盟組合運動資料 (Deutsche Gewerkschaften Collection, 1949-1986)

西ドイツ労働総同盟(DGB)は1949年10月ミュンヘンで、英米仏三国占領地域の16の産業別労働組合の代表が集まって、労働組合運動を統一的行うために設立されたものである。この16の単産は、規模の大小を問わず全ての産業や公的機関の労働者が産業別に組合に加入できるように境界線を明確にしてDBGを設立した。

本コレクションは、この西ドイツ労働総同盟(DGB)および15の加盟労働組合の活動記録であり、1949年から1986年代までの各労組の年次活動報告書、組合大会議事録、統計年鑑、労働協約集等の資料集などである。1990年購入、約480冊。

西川コレクション

1982年収蔵。和書419冊。明治期簿記書。

大正9(1920)年神戸高等商業学校を卒業後三菱商事に入社、後に日本大学商学部教授になった西川孝治郎(1896～1990.8.28)氏の寄贈図書。和式帳合から洋式簿記への移行期にわが国で刊行された主要な簿記書を網羅的に収集したコレクション。

小場瀬文庫

1977、1979年収蔵。1677冊。フランス啓蒙思想。

モリエール、ディドロ、ボーマルシェ研究をはじめとするフランス啓蒙思想研究家小場瀬卓三(本学講師、都立大学名誉教授、1906.5.12～1977.11.12)氏の旧蔵書。

岡田家文書

河内国岡村の名主であり、地主・質屋などを業としていた岡田家の文書。18世紀以降明治初年までの村方史料、幕末から昭和期にかけての小作関係史料、地方銀行関係史料、その他商業史関係史料約3000点。

本学名誉教授佐々木潤之介氏の研究に伴い、岡田家から寄託(昭和53(1978)年仮契約、平成4(1992)年本契約)を受ける形で収蔵していたが、平成13(2001)年8月に購入し、正式に当館の所蔵となった。またこの際併せて、岡田家に残置されていた資料を受贈した。

大窪コレクション

1988～1989収蔵、168冊。

IPR(Institute of Pacific Relations＝太平洋問題調査会)関係資料で、日本IPRの事務局に勤務していた大窪憲二氏の収集したコレクション。中には米国の連邦調査局(FBI)によるIPR操作記録、IPRの内部資料である議事録や書簡類、IPRが第二次大戦前から戦中にかけて出版したパンフレットなどの貴重な資料を含む。この内の議事録、書簡類に関しては合本製本され(Nd-A877 - A923)本学院生(1991年7月現在)であった、加藤公一氏による内容詳細目録が作成されている。

大沢文庫

1970年収蔵。洋書1,770冊。国際法、法思想史。

九州大学名誉教授大沢章(1889～1967.7.9)氏の旧蔵書。国際法、法思想史、宗教史研究の基本書が多数を占める。

小曾木村役場文書

青梅市に合併された旧小曾木村作成の文書綴で、昭和13(1938)～24(1949)年頃の統計関係、疎開関係、節電関係、大政翼賛会関係等の簿冊124冊。

大塚文庫

1975、1976、1987年収蔵。8205冊。社会思想。

本学名誉教授大塚金之助(1892.5.15～1977.5.9)氏の旧蔵書。氏の蔵書は、日本の社会思想史を中心とする和書と、19世紀から20世紀にかけての外国書のコレクションが中心であるが、和書については旧ドイツ民主主義共和国の国立図書館に寄贈され、外国書の方が本学に寄贈された。さらに、氏の没後にも再度多量の資料が寄贈されている。本学に寄贈されたこれら洋書のコレクションは、社会主義文献のみならず、近代経済学の文献もかなり多く、革命関係や、産児制限、婦人問題、文芸類など主題は多岐にわたっている。なお、中国書と朝鮮書は冊数が少ないので一般図書に分類され、洋書のみが文庫として別置さ

れた。

良知文庫

1991年収蔵。1147冊。1848年ヨーロッパ革命資料。

良知力教授(1930.1.12～1985.10.20)の旧蔵書の一部で、以下の内容からなる。

- 1848年革命原資料 372点
これは、1848年革命当時実際に発行された新聞、公示文、ビラ、激文等からなり、本コレクションの中で最も資料的価値の高いものである。
- 1848年革命関係文献(書籍) 727点
これは、オーストリア、ドイツ、ハンガリー、フランス、ロシア、チェコ、ポーランド、イタリア等の48年革命に関する文献を網羅しており、以下の内容から成る。
 - 1848年革命の当事者、参加者が、1848年当時またはその後に書き遺したもの。
 - 1848年革命当時に発行されたパンフレット類。(発行部数は少なく、複製されることもなく、資料的価値は高い。)
 - 1848年革命当時の公的記録、議会の議事録、当時の統計、Kalender、Landeskundeなど。
 - 1848年革命に関する資料集成および基本的研究資料。(19世紀または戦前に出版されたものが多く、現在では入手が非常に困難なもの。)

本コレクションの中心的内容は、1848年革命に関する第1次資料にある。特に、オーストリアの48年革命関係資料のコレクションに関しては、従来Steinerのものが世界的に有名であったが、本コレクションはそれに匹敵する規模をもつものである。

リソルジメント・コレクション

1980年収蔵。洋書3801冊。イタリア近代史。

北イタリアの実業家ジャンニ・カプローニ(Gianni Caproni、1886.7.3～1957.10.27)が、生涯かけて収集したリソルジメント(近代イタリア統一民族国家形成運動)に関する旧蔵資料を中核とし、これにイタリア国家参議会が1944年に放出した蔵書およびファシズム時代の政治家、チェザーレ・マリア・デ・ヴェツキ・ディ・ヴァル・チスモン(1884～1959)の蔵書に由来するコレクションが追加されたもの。リソルジメント史資料としてより完全なものにするために、追加にはイタリア史の専門家O.ノイマイヤー博士があたった。内容的には19世紀はじめに始まるイタリア国家形成のための政治運動、思想運動に関する文献で構成されている。また、同時代人によるリソルジメント運動の記述として、古典的評価が与えられているものの他、1950年代までに発表されたリソルジメントに関する研究書が多数収められている。リソルジメントの政治運動、思想運動に携わった当事者の著作(その多くは初版)およびこれら運動家の伝記が自由主義派および民族主義派の双方に渡って広く集められているのが、このコレクションの重要な特色である。

佐野文庫

元東京商科大学学長、佐野善作(1873.8.29～1952.5.1)氏の旧蔵書。本文庫は、1939年と1961～1965年にかけて佐野元学長記念事業会より寄贈された。洋書2356冊、和書766冊で、内容的には貨幣、銀行、金融、取引所、商業学関係が中心である。

佐藤文庫

1971年収蔵。1590冊。独語、独文学。

東京大学文学部独文科主任教授であった佐藤晃一(1914.3.4～1967.7.7)氏の蔵書のうちの、主としてドイツ語ドイツ文学関係のコレクションである。とくにトーマス・マンの作品及び研究書は初期のものから網羅的に収集されている。また、翻訳書を含めた和書は、わが国で出版されたドイツ語学文学関係の研究書を主体とし、今日ではすでに入手困難なものを多数含んでいる。なお、「目録」はこのうち洋書のみを編集したものである。

シュンペーター文庫

1955年収蔵。3736冊。理論経済学。

ケインズと並ぶ近代経済学の巨匠、シュンペーター(Joseph Alois Schumpeter、1883.2.8～1950.1.8)博士がハーヴァード大学時代に収集された資料の一部。その内容は、世界各国の経済関係の雑誌と、シュンペーター博士に贈られた各国の学者の

論文の抜刷などであり、その中にはシュンペーターの手沢本も多く含まれている。博士の愛弟子であった中山伊知郎教授と都留重人教授が一橋大学に在籍しており、また、シュンペーター夫人が日本経済の研究者でもあったことと関連して同夫人の遺言により本学に寄贈されたものである。

精密機械統制会資料

昭和16(1941)年9月1日に施行された重要産業団体令に基づいて、時の政府は、戦時体制を確立するために「主務大臣」の命令により、産業の種類別に、重要産業における事業の統制を目的とする業界組織である統制会を設立した。統制会の具体的事業は、生産、配給、資材、資金、労務等の需給調整・指導統制・検索・調査研究等であった。精密機械統制会は鉄鋼、石炭、鉱山等とともに第1次指定分として昭和17(1942)年1月に設立された。

本学所蔵の精密機械統制会資料は、同会に提出された「重要機械製造事業査定申告書」「重要機械製造事業許可申請書」「労務実績報告書」「事業計画書」「重要工場調査票」等の調査個票(原票)や簿冊群である。(簿冊160, 袋160)

本資料は、精密機械統制会に在職された宮崎正吉氏(1936年本学卒)から寄贈を受けたものであり、本学だけが所蔵している貴重な原資料である。保存状態は悪くはないが、戦前の質の悪い紙にカーボンコピーでタイプされた数字が多く、このままでは将来データの判読が困難になることが懸念されている。なお、全資料はマイクロフィルム化済である。

戦前期アジア諸国写真コレクション

陸軍経理学校がその研究のために収集した、昭和初期から第二次世界大戦期にかけてのアジア・太平洋諸地域の風俗、風景、民族、産業等の3705枚の写真コレクション。地名・分類ごとに、330の袋(封筒)に分けられている。なお、このほかに、1289枚のバラ写真が存在する。

陸軍経理学校から同学校の図書資料である「若松文庫」等が本学に移管された際に、附随して本学に運ばれたと推測されるが、正確な伝来・入手の経緯は不詳。

以前は、「軍配組合」関係資料と共に、附属図書館地下書庫に収蔵されていた。

「百年記念募金」の援助をうけてマイクロフィルムにより複製化され、紙焼き・製本したものが「戦前期アジア諸国写真コレクション」と題して図書館に所蔵されている。

オリジナルの写真資料は大別すると、分類して袋に入れられた写真と、無造作にダンボールに入れられたばらばらの写真の二種類あったが、ばら写真は重複分が多かったので、複製化は袋入り写真に限定された。これは一枚ずつ白紙の台紙に貼られ、台紙表面には、撮影された地域、分類番号・分類項目、解説等が記述されている。

なお、オリジナルの利用は不可、複製・製本アルバムでの利用のみに限定されている。平成13(2001)年、HDA(Hitotsubashi Digital Archives)により、デジタル(画像データ)化された。

島田滋氏旧蔵史料

ソ聯関係調査資料。

ソビエト領事官であった島田滋氏旧蔵史料(1931～1957年頃作成事務文書等)。本史料には、新聞の切抜き、日ソ交渉議事録(「在ソヴィエト聯邦日本大使館」「在外公館」名入り野紙使用のタイプ打ち、手書き事務用文書)等が雑然と混在している。

「修学旅行」報告書

東京高等商業学校時代の「修学旅行」制度に基づく「修学旅行」報告書。この制度は、明治21(1888)年度から実施されたものであり、「東京高等商業学校一覧」によれば、「本校学生の内学生の成績優秀なるもの若干名」を選び旅費を給付して、「夏期休業中地方商工業の状況を視察せしめ」、報告書の提出を義務づけたものである。その中には、今日でも研究者に利用されている貴重な報告書も含まれている。

スペイン市民戦争文庫 (Collection Spanish Civil War - La Guerra Civil de Espana 1936-1939)

1981年収蔵。1287冊(73リール)

ミラノのフェルトリネリ研究所が収集したスペイン市民戦争(1936～1939)史を中心とするスペイン現代史研究書の書籍と定期刊行物、および若干のマイクロフィルムなどのコレクション。

内容的には、スペイン市民戦争史研究のための、スペイン側基本資料を収集したもので、内戦下および戦後の文献収集の事情を反映して、全体として右派、中間派の資料が豊富であるという特徴を持つ。同時に従来の研究者が十分に利用していない左派の諸運動の機関紙(地方史を含む)を包括している。また、内戦の主要登場人物の回想記・著述を数多く含み、同時代人の作品や戦争文学なども収録されている。

外池文庫

1959年収蔵。洋書2183冊。

イギリスの古書籍商、イートン(Peter Eaton, 1914～)の収集した英国協同組合運動、ロバート・オーウェン関係文献・史料を、東京高商出身の外池五郎三郎(明43年本科卒, 1888～1982.2.3)氏が購入して、1959(昭和34)年に母校に寄贈したものである。

イートンは彼の生地、Rochdale(近代消費組合発祥の地)の影響を受け、また古書籍商でもあったので、この方面の収集を行った。このコレクションの中核をなすものは英国協同組合の個別史、及びその生成に関する資料であり、またロバート・オーウェンをはじめとする個人のマニスクリプトも含まれている。この他にもランカシャー地方を中心とした地方史なども含まれている。

ロバート・オーウェン関係の資料としては、他に星島コレクション(古典資料センター所蔵の一般貴重書)や「フランクフルン文庫」などがあり、これらを総合すると、オーウェン及びイギリスの協同組合、社会主義運動に関する世界的コレクションを形成している。

統計文庫

本学教授森田優三(1901～)氏の寄贈資料(2,639冊)を基礎とした統計関係の単行書、逐次刊行物などのコレクション。

東欧諸国現代史資料

1981年収蔵。

旧ソ連・東欧諸国の19世紀から近年におよぶ現代史全体をカバー。末期のロシア帝政、ロシア革命史、ソ連の政治裁判、ポーランド政治史関係に特色がある。図書1万3千104冊(内英語文献約3千冊、ロシア語約4千冊、ポーランド語約2千冊など)、新聞・雑誌は24タイトル、合わせて1万5千冊にのぼる。スタンフォード大学、フーヴァー研究所旧蔵資料の一部を購入したもの。

土屋文庫

1981～1985年収蔵。13408冊。日本経済史、経営史。

東京大学名誉教授土屋喬雄(1896.12.21～1988.8.19)氏旧蔵コレクション。幕末から昭和前期の日本経済史・経営史関係、明治初年から30年代までの中央経済官庁の統計書・報告書類、殖産興業関係資料、地方官庁資料などが主な資料である。

土屋喬雄の旧蔵書は、概ね明治維新を境として、それ以降を本学が、それ以前の近世古文書類を東京大学経済学部が所蔵している。

上田(貞次郎)文庫

1943年受贈。洋書1334冊、和書1691冊。経営学関係。

元東京商科大学学長、上田貞次郎(1879.5.12～1940.5.8)氏の旧蔵書が遺族から寄贈されたもの。イギリスに重点をおいた経済学、経済史、経営経済学、人口論関係文献などのコレクション。

山田欽一文庫

1976年(洋書)、1977年(和書)遺贈。504冊。

本学名誉教授・山田欽一(1906.9.25～1974.11.25)氏旧蔵の数学書。

山中文庫

1981年収蔵。洋書4700冊。

山中篤太郎(1901.9.4～1981.1.16)旧蔵の労働問題関係文献。

山内文庫

1976～1978年収蔵、洋書3189冊、和書1141冊。ヨーロッパ哲学。

京都市立大学名誉教授であり、元東京商科大学教授であった、西田幾多郎門下の哲学者、山内得立(1890.6.12～1982.9.19)氏の旧蔵書。18世紀から20世紀初頭までに出版されたヨーロッパ哲学の基本文献および古代ギリシャ哲学、中世哲学関係の文献を含む。

7 オンラインジャーナル/データベース, CD-ROM一覧

(1) オンラインジャーナル

サービス名	収録誌数	収録範囲	更新頻度
JSTOR	221	創刊号～2-5年前	毎年1月
NACIS-ELS	475	(各誌毎に異なる)	随時
Blackwell Publishing 刊行電子ジャーナル	263	(各誌毎に異なる)	随時
Cambridge University Press 刊行電子ジャーナル	80	(各誌毎に異なる)	随時
MCB University Press 刊行電子ジャーナル	約130	(各誌毎に異なる)	随時
Oxford University Press 刊行電子ジャーナル	174	(各誌毎に異なる)	随時
ScienceDirect (Elsevier刊行電子ジャーナル)	約800	最近5年分	随時
John Wiley & Sons 刊行電子ジャーナル	約330	(各誌毎に異なる)	随時
科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)	76	(各誌毎に異なる)	随時

(2) オンラインデータベース

サービス名(分野)	収録範囲	更新頻度
PAIS International (社会科学関係記事索引)	1972～最新	年12回
EconLit : Economic Literature (経済関係記事索引)	1969～最新	年12回
ILP : Index to Legal Periodicals & Books (法学関係記事索引)	1981～最新	年12回
SA : Sociological Abstracts (社会学関係記事索引)	1963～最新	年4回
BPI : Business Periodicals Index (商学関係記事索引)	1982～最新	年12回
MLA International Bibliography (文学, 語学関係記事索引)	1963～最新	年10回
Lexis.com (法学, ビジネス, 新聞雑誌記事等)	～最新	随時
Academic Universe (法学, ビジネス, 新聞雑誌記事等)	～最新	随時
Congressional Universe (米国議会情報)	～最新	随時
SourceOECD (OECD全出版物)	1998.1～最新	随時
雑誌記事索引 (国立国会図書館編集国内雑誌記事索引)	1975～最新	月2回
日経テレコン21 (日経4紙全文記事)	1985～前日	毎日
朝日新聞DNA (朝日新聞全文記事)	1985～当日の朝刊	毎日
毎日Newsパック (毎日新聞全文記事)	1987～前日	毎日
ヨミダス文書館 (読売新聞全文記事)	1986～前日	毎日
PCI : Periodicals Contents Index (人文社会学関係雑誌目次)	創刊号～1995	(なし)
CELEX (欧州連合法律情報)	～最新	随時
First Search (OCLC総合データベース)	～最新	随時
Current Index to Statistics (統計学関係書誌情報)	～最新	随時
Chemical Abstracts (科学関係全文データベース)	～最新	随時
NACIS-IR(機鑑別定額制)	～最新	随時
研究成果展開総合データベース(J-STORE)	～最新	随時

(3) スタンドアロンCD-ROM

サービス名(内容)	収録範囲	更新頻度
BIP : Books in Print on Disc (米国書籍出版目録)	最新版	年12回
判例体系	最新版	年1回
法律判例文献情報	1982年～最新	年1回
[電子版]現行法規	最新版	年2回
朝日新聞戦後見出しデータベース	1945～1999	
SSCI : Social Sciences Citation Index (社会科学系引用文献索引)	1981～最新版	年4回
SSfull : Social Sciences Index/Abstracts with Full Text (社会科学系全文情報)	1983～2001	
A&HCI : Arts & Humanities Citation Index (人文科学系引用文献索引)	1975～1994	
ASSIA Plus (社会科学索引, 抄録)	1987～最新版	年4回
Humanities Abstracts Full Text (人文科学関係記事索引)	1984～2001	
Political Science Abstracts (政治学関係文献データ)	1975～2001	
Mergent Company Data (米国上場企業, 財務情報)	2001年版	
Mergent International Company Data (米国外上場企業, 財務情報)	2001年版	
International Financial Statistics (IMFマクロ経済, 金融, 貿易データ集)	2001年版	
Balance of Payments Statistics (IMF国際収支統計集)	2001年版	
Indexes of British Parliamentary Papers (英国議会議事録総索引)	1801～1922, 44/45	
OJCD : Official Journal of the European Communities (欧州連合官報)	最新版	年4回
DNB : Dictionary of National Biography (英語圏著名人伝記事典)	1985年没まで	
Oxford English Dictionary (英語辞典)		
Random House Dictionary (英語辞典)		
大宅壮一文庫雑誌記事索引	1992～2000	
CD論文集内容細目総覧 (人文社会科学分野学術論文論文情報)	1945～1998	
学会年報・研究報告論文総覧 (人文社会科学分野年次研究報告書情報)	1945～1995	
ジャーナルインデックス (雑誌論文記事情報)	1981～2000	
CD-JOINT (非学術誌, 業界誌記事索引)	1981～1995	
ASEAN資料集成	1967～1996	
BGHZ (ドイツ連邦民事判例集)		
BGHE (ドイツ連邦民事主要判例集)		
BVerwG-DAT (ドイツ連邦行政判例集)		
世界大百科事典		

ネットワークCD-ROMデータベース検索は、2002年3月末でサービスを終了し、オンラインデータベースに移行、統合された。

8 電算化・電子化

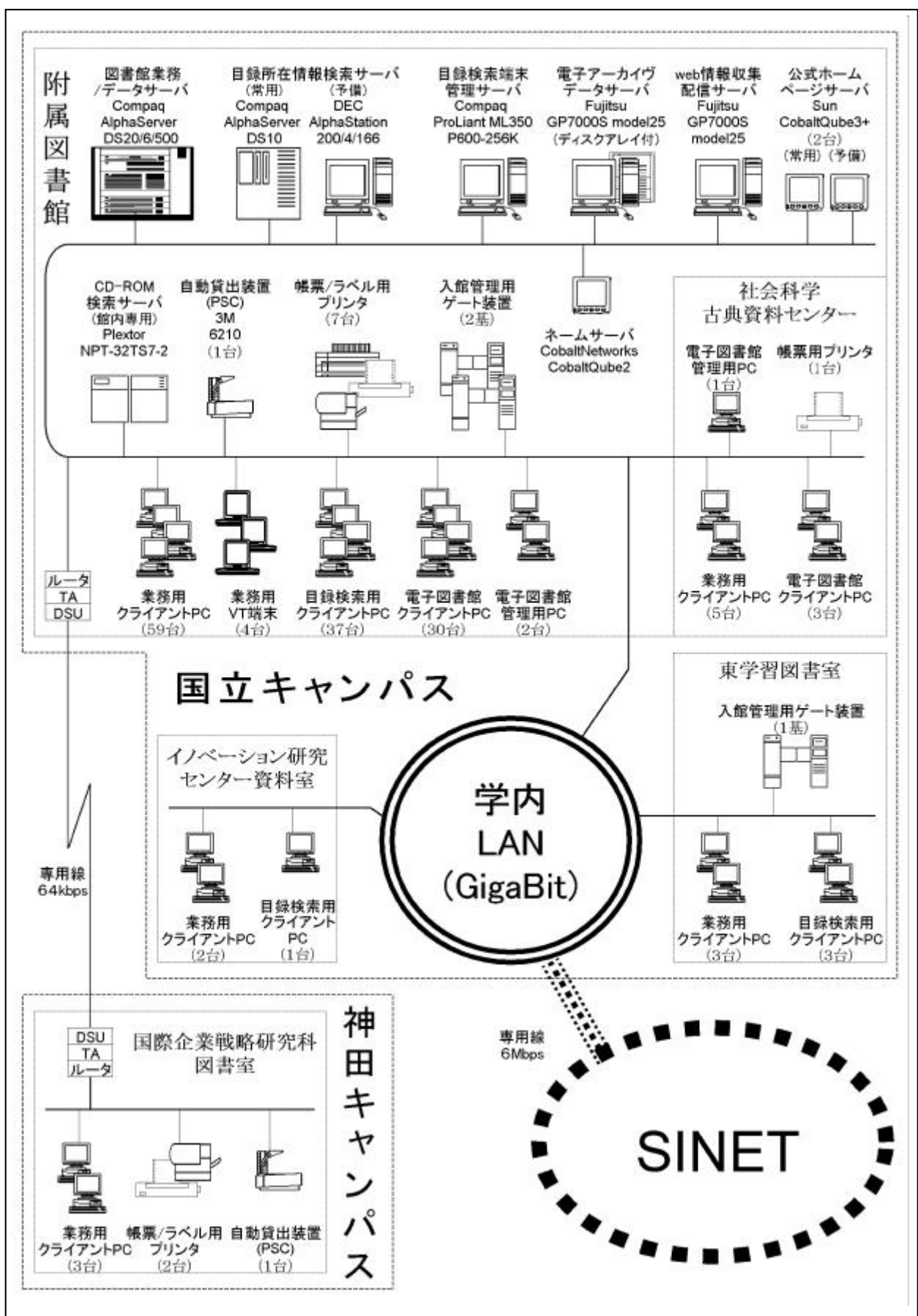
8.1 経緯

- 昭和 55 年 2 月 図書館機械化委員会設置。
- 昭和 56 年 6 月 情報処理センターホストシステムによる新館閲覧業務の電算化開始。
- 昭和 60 年 12 月 情報処理センターホストシステムによる雑誌管理業務の電算化開始。
- 昭和 62 年 4 月 業務電算化委員会設置。
- 平成 2 年 6 月 業務電算化委員会第 3 次報告書「HI-OPAC Service の実現に向けて」。
- 平成 3 年 2 月 丸善製図書館資料情報管理システム「CALIS」を導入(サーバ: 日本DEC製 VAX4000/300)。閲覧, 雑誌, 図書目録, ILL 業務を電算化。
- 6 月 図書館業務システムの愛称を「HERMES」(Hitotsubashi Educational and Research MEdia Service)に決定。
- 平成 6 年 4 月 館内用サーバによる CD-ROM 検索サービスを開始。
- 平成 7 年 1 月 如水会の援助により「JOINT」(JOsuikai Information NeTwork)システム(サーバ: 日本DEC製 3000-800S)を導入。telnet による館外への OPAC 検索サービスを開始。
- 10 月 小平分館統合, 本館増改築に備えて HERMES システムを改修。
- 平成 8 年 1 月 HERMES システムを更新(サーバ: 日本DEC製 AlphaServer2100/4/233)。受入業務を電算化。
- 3 月 ホームページ用 web サーバを導入(サーバ: シリコングラフィックス製 WebFORCE Indy)。
- 10 月 図書館公式ホームページの公開を開始。
- 平成 9 年 3 月 web 対応 OPAC 検索サーバを導入(サーバ: 日本DEC製 AlphaStation200/4/166)。
web 対応 CD-ROM 検索サーバを導入(サーバ: 新日本製鉄製 NSCDNet)。
- 4 月 本館で入退館管理システムの運用を開始。
- 6 月 web による OPAC 及び CD-ROM 検索サービスを開始。
- 平成 10 年 4 月 東学習図書室で入退館管理システムの運用を開始。
- 平成 11 年 4 月 HERMES システムによるイノベーション研究センター資料室の目録業務電算化を開始。
- 平成 12 年 1 月 HERMES システムを更新(サーバ: コンパックコンピュータ製 AlphaServer DS20/6/500)。
- 4 月 HERMES システムによる国際企業戦略研究科図書室の業務電算化を開始。
- 10 月 JOINT システムを更新(サーバ: コンパックコンピュータ製 AlphaServer DS10)。OPAC 検索サービスを web に一本化。旧 web 対応 OPAC 検索サーバ(AlphaStation200)をバックアップ機に転用。
- 平成 13 年 3 月 一橋デジタルアーカイブス(HDA : Hitotsubashi Digital Archives)システム導入(サーバ: 富士通製 GP7000Smodel25×2機)。
国際企業戦略研究科図書室で, 自動貸出装置(PSC)の運用開始。
- 4 月 HDA システムによる「四大学連合目録所在情報横断検索」および「一橋大学 web サイトサーチ」サービスを開始。
- 11 月 HDA システムによる電子化コンテンツの公開を開始。
(「戦前期アジア諸国写真コレクション」「フランクリン文庫フランス関係資料(第 1 期)」)
- 平成 14 年 4 月 オンラインデータベースへの移行により, web 対応 CD-ROM 検索サーバ(NSCDNet)の運用を終了。
- 5 月 情報処理センターと共同で, オープンアクセス(利用者持込 PC の無線/有線 DHCP 接続)サービス実験開始。
本館で, 自動貸出装置(PSC)の運用開始。
- 8 月 ホームページ用 web サーバを更新(サーバ: サン・マイクロシステムズ製 CobaltCube3+×2機)。



電子計算機室(雑誌棟 1 階)

8.2 附属図書館業務システム/電子アーカイブシステム構成図



8.3 一橋デジタルアーカイブス(HDA)計画

一橋大学附属図書館における電子図書館サービスは、当初、データベース(オンライン/CD-ROM)や電子ジャーナル等、外部情報資源へのアクセスを提供する「配信系」サービスを中心に進んで来た。

一方、所蔵資料の電子化といった「発信系」サービスについては、附属図書館将来計画検討小委員会の答申においても取り組むべきことが提言されていたが、平成12年度補正予算において措置がなされ、「一橋デジタルアーカイブス」(Hitotsubashi Digital Archives: HDA)システムとして実現することとなった。

HDAは図書館の枠に留まらず、「一橋大学のあらゆるところに存在するあらゆる種類のコンテンツを一元的に検索、閲覧できる環境を提供」することを目標としている。他大学の電子図書館システムのように、名称中に「図書館」「Library」等の語を入れていないのはそのためである。

【目的、目標】

(1)「一橋大学電脳文書館」の構築

- 一橋大学が所蔵する貴重資料、コレクション(古典籍、手稿類、写真、図譜、*etc.*)
- 一橋大学が所蔵する原典資料、文献(古文書から行政文書まで)
- 一橋大学の教育研究成果(研究報告、紀要、各種データ、学位論文、*etc.*)
- 学園史に関わる各種資料(本邦商業教育史料等)

(2)「一橋大学総合ディレクトリ」機能の実現: 学内のあらゆるところに存在するあらゆる形態の文書を一元的に検索できるように。

【機能】

(1) 電子アーカイブ機能

- あらゆる形態のコンテンツを収納
図書だけでなく、文書、手稿類、写真、図譜類等を想定。
- 標準準拠による統一的な検索項目
DublinCore: ネットワーク上の文書、情報等の標準記述
NACSIS-CAT: 大学図書館の書誌ユーティリティ記述
ISAD(G): International Standard Archival Description (General): 国際標準記録資料記述
- コンテンツの構成に即した直感的な検索と閲覧
 - 階層(ディレクトリ)構造検索
 - 画面上の仮想図書館

(2) ポータル機能

- 一橋webサイトサーチ
一橋大学のweb情報に特化した検索エンジン。
- 四大学連合目録所在情報横断検索
東京医科歯科大学附属図書館、東京外国語大学附属図書館、東京工業大学附属図書館、一橋大学附属図書館、一橋大学経済研究所の資料所在情報及び、国立情報学研究所の全国目録所在情報NACSIS-Webcatを一覧的に検索。

(3) 資料電子化支援機能

- サーバ機能の提供
自前のシステム等を持たない部局等に、ディスクスペースと検索システムを提供。
- コンテンツ電子化手段の提供
 - 少量の資料であれば、自前で電子媒体化を行える入力器材等を整備。
 - 市販ソフトウェア等を利用したアップロードデータ作成。

【インターフェイス】

(1) キーワード検索

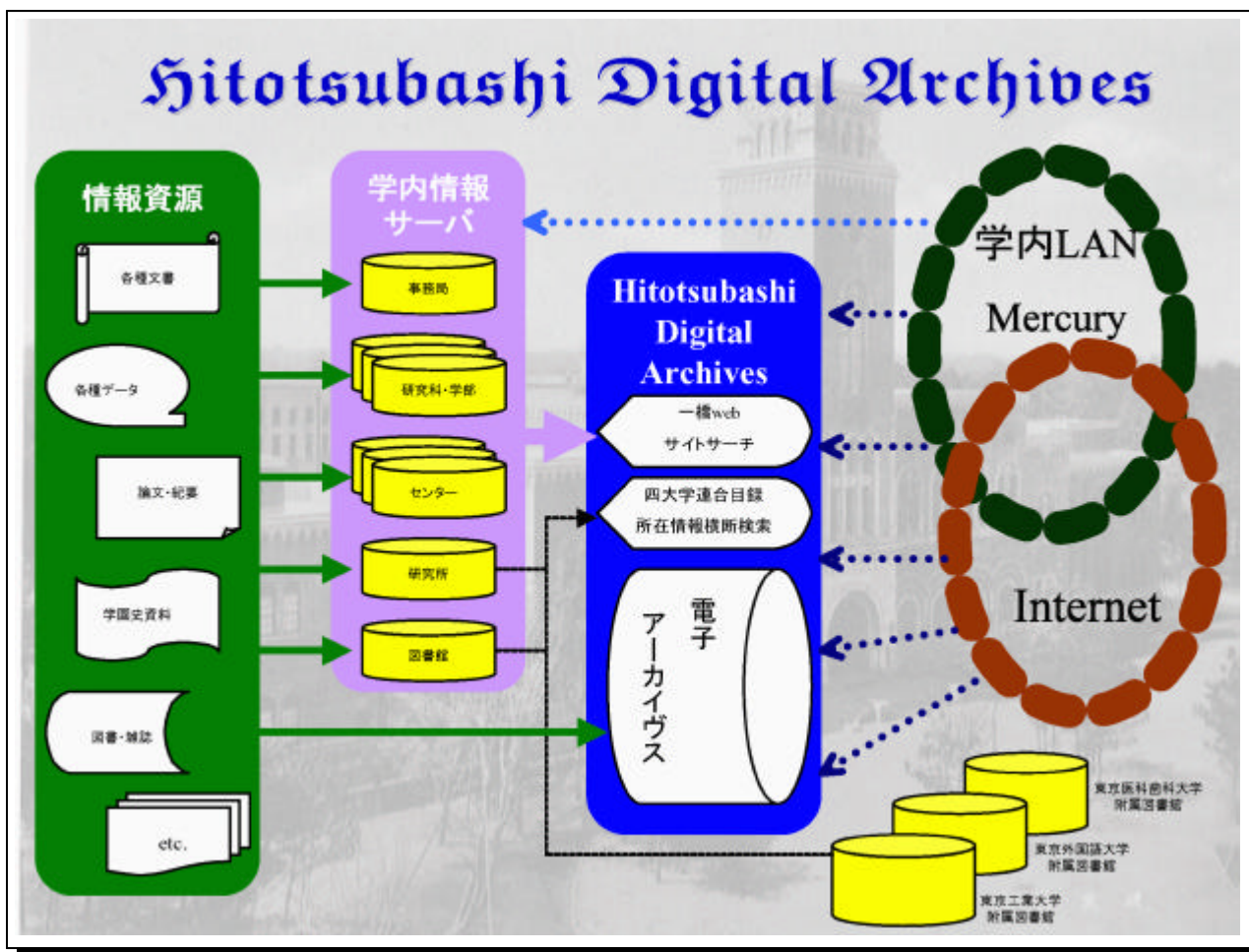
- 汎用検索項目
DublinCore: 資料形態、コレクション等の枠を超えた一元検索。
- 資料形態や特性に応じた検索項目
NACSIS-CAT ISBD: 冊子体資料の国際標準
ISAD: 文書資料の国際標準

(2) ディレクトリ検索: 各コンテンツ(コレクション)の構成を一覧的に探索。

Fond(コレクション全体)
↓
Series
↓
Subseries
↓
File
↓
Item(個別タイトル)

(3) 仮想来館モード: ディレクトリ構造を画面上の仮想図書館で表現。

文書館ホール(Archives)
↓
書架/キャビネット(Fond)
↓
書棚/抽斗(Series)
↓
(ディレクトリ検索)



HDA 機能概念図

9 附属図書館出版物

(平成8年度以降)

- 附属図書館利用案内(年1回以上発行)
- Hitotsubashi University Library Guide
- 附属図書館館報「鐘」(年2回発行)
- 「一橋大学附属図書館図書配架コードについて」(平成8年10月)
- 「一橋大学附属図書館新館」(平成9年)
- 「図書館サービスに関するアンケート報告書：平成11年6月実施」
- 「図書館サービスに関するアンケート報告書(概要)：平成11年6月実施」
- 「一橋大学附属図書館本館」(平成12年10月)
- 「土屋喬雄文庫目録」(平成14年3月)

10 公開展示

平成13(2001)年，附属図書館時計台棟1階に公開展示室が整備され，開室記念として開催した企画展「一橋大学への歩み ―創設期から一橋大学の成立まで―」を開催したところ，2週間に延べ千三百名を超える入場者を数えた。図書館に限らず，本学の有するさまざまなコンテンツを公開することを目的として，年に1回の企画展と数回の常設展を企画，開催している。



【展示会開催記録】

(平成13年11月～14年8月)

(1) 平成13年度企画展「一橋大学への歩み ―創設期から一橋大学の成立まで―」

期間：平成13年11月7日～11月20日

延開室日数：14日間

延入場者数：1,332名

(2) 第1回常設展「一橋大学への歩み ―明治期―」

期間：平成14年1月17日～2月28日

延開室日数：30日

延入場者数：1,030名

(3) 第2回常設展「一橋大学への歩み ―大正期―」

期間：平成14年4月10日～5月31日

延開室日数：35日

延入場者数：1,025名

(4) 第3回常設展「一橋大学への歩み ―昭和戦前―」

併設展示：附属図書館コレクション紹介 1「土屋喬雄文庫」

期間：平成14年6月18日～8月30日

延開室日数：48日

延入場者数：2,189名

11 統計

11.1 所蔵状況

11.1.1 所蔵資料数(平成14年3月31日現在)

資料区分\所蔵部署		附属図書館	古典資料センター	計
図書 (冊)	和	834,961	0	834,961
	洋	748,657	63,531	812,188
	計	1,583,618	63,531	1,647,149
雑誌 (種類)	和	6,393	0	6,393
	洋	8,291	0	8,291
	計	14,684	0	14,684
電子ジャーナル (種類)		1,324	0	1,324
マイクロフィルム (種類)		700	500	1,200
マイクロフィッシュ(種類)		124	0	124

注1: 附属図書館所蔵の社会科学古典資料は、社会科学古典資料センター(以下、古典資料センターと記す)で管理運営している。

注2: 中国語・韓国語の図書・雑誌は、それぞれの「和」に含む。

注3: 洋雑誌には、社会科学系外国雑誌センター館購入分を含む。

11.1.2 受入資料数

資料区分\年度		平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
図書 (冊)	和	12,962	11,985	14,028	13,470	20,990
	洋	15,928	13,552	15,214	12,982	15,459
	計	28,890	25,537	29,242	26,452	36,449
雑誌 (種類)	和	1,746	1,743	1,752	1,729	1,728
	洋	3,519	3,363	3,331	3,285	3,302
	計	5,265	5,097	5,083	5,014	5,030
マイクロフィルム (種類)		55	45	26	31	17
マイクロフィッシュ(種類)		8	5	8	11	1

注4: 洋雑誌には、社会科学系外国雑誌センター館購入分を含む。

11.2 利用状況

11.2.1 開館日数と入館者数

区分 \ 年度			平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
本館	平日	開館日数	212	211	222	192	224
		入館者数	213,444	214,968	221,750	228,423	323,243
		日平均入館者数	1,007	1,019	999	1,190	1,443
	休日	開館日数	35	35	33	33	79
		入館者数	6,384	9,229	9,616	9,938	24,294
		日平均入館者数	182	264	291	301	307
	学外者数(内数)		3,164	8,541	10,002	12,150	16,438
	東学習	開館日数	114	230	229	231	227
	図書室 (平日のみ)	入室者数	N/A	55,619	55,843	56,885	46,214
		日平均入室者数	N/A	242	244	246	204

注5: 平成12年度までの休日開館は土曜日のみ。平成13年度から、日、祝日開館を開始。

注6: 東学習図書室(平成9年10月開室)の入室者数については、平成10年度から集計。

11.2.2 館外貸出冊数

冊数 \ 年度	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
教職員	8,885	9,289	8,614	9,785	11,364
学生	84,895	95,717	104,228	123,715	127,356
学外者	3,433	6,073	9,418	9,944	9,313
計	97,213	111,079	122,260	143,444	148,033

11.2.3 参考調査業務件数

件数 \ 年度	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
総件数	4,046	4,249	4,812	4,448	5,056
利用者	320	346	390	360	410
別内訳					
学生	2,980	3,222	3,630	3,354	3,812
学外者	746	681	792	734	834
内容別					
所在調査	1,374	1,305	1,737	1,642	1,866
事項調査	350	488	525	496	566
利用指導	2,310	2,450	2,550	2,310	2,624
その他	12	6	0	0	0

11.2.4 相互協力件数

(1) 現物貸借冊数

冊数\年度			平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
貸出	国内	大学図書館	798	866	1,146	1,076	1,496
		その他	0	0	13	27	45
	国外		0	0	0	0	0
	計		798	866	1,159	1,103	1,541
借受	国内	大学図書館	613	667	791	799	712
		その他	58	35	43	71	69
	国外		0	0	0	36	28
	計		671	702	834	906	809

(2) 文献複写件数(学外)

件数\年度			平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
受付	国内	大学図書館	8,196	9,839	8,836	8,711	9,076
		その他	1,318	1,002	570	470	358
	国外		0	0	1	1	7
	計		9,514	10,841	9,407	9,182	9,441
依頼	国内	大学図書館	1,688	1,607	1,529	1,804	1,372
		その他	2	19	62	219	26
	国外		1	1	9	41	28
	計		1,691	1,627	1,600	2,064	1,426

11.3 経費

11.3.1 図書館資料費(専門図書費)

単位:千円

区分\年度	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
学内校費配分	260,459	256,827	271,250	289,169	290,619
(校費に占める割合)	(21.4%)	(21.1%)	(21.1%)	(21.6%)	(21.4%)
文部省事項指定	63,013	59,291	60,555	62,367	70,097
その他(他部局からの振替等)	3,464	1,567	19,543	60	4,085
合計	326,936	317,685	351,348	351,476	356,631

11.3.2 図書館運営費，整備費，事業費

単位:千円

区分\年度	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
運営費	22,914	21,346	23,901	25,136	42,013
整備費	27,339	54,732	103,045	54,245	12,994
事業費	19,301	8,610	7,623	10,518	2,444
合計	69,554	84,708	134,569	89,899	57,451

注7: 運営費には，外国雑誌センター経費を含む。

12 開館状況

12.1 開館時間

	平日 (月～金)		土・日・祝日 (授業期のみ)
	授業期	休業期	
図 書 館 本 館	9:00～22:00	9:00～17:00	9:30～16:30
雑 誌 棟	9:00～21:30		9:30～16:00
大 閲 覧 室	9:00～21:00		(閉室)
書 庫	9:00～16:45 (入庫:～16:30)		
東学習図書室	9:30～16:45		

12.2 休館日

- 学則に規定する各休業期間(春季，夏季，冬季)中の土曜日，日曜日，祝日。
- 学部入学試験日，大学入試センター試験日。
- 年末年始(12月27日～1月4日)。
- 毎月第4水曜日。ただし試験期(1，7，11，12月)を除く。
- 東学習図書室は土曜日，日曜日，祝日，大学院試験日およびその前日，学部入学試験日前日，大学入試センター試験日前日も休室。

12.3 開館日数

年度		平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
本館	平日	212	211	222	192	224
	休日	35	35	33	33	79
	計	247	246	255	225	303
東学習図書室(平日のみ)		114	230	229	231	227

【“TEMPUS FUGIT”の額】



この額は最初、神田一ツ橋にあった東京高等商業学校の御大典記念図書館(大正6(1917)年開館)内に掲げられていた。「御大典記念図書館に関する説明及平面圖」には、「“TEMPUS FUGIT”の文字は光陰如矢のラテン格言を記し其の上に時計を配して惜寸陰の意を表はせるなり」とある。

昭和5(1930)年の東京商科大学国立移転後は、図書館2階書庫出納カウンターの頭上に掲げられて、長らく図書館と本学の歴史を眺めていた。

現在は、平成12(2000)年に竣工した図書館本館の1階ホール奥、書庫入口の上に掲げられている。



大正14年(1925)年度卒業アルバムより(左上に額が見える)

一橋大学附属図書館概要 平成14(2002)年度

平成14年10月発行

編集発行: 一橋大学附属図書館 〒186-8602 東京都国立市中2丁目1番地

URL: <http://www.lib.hit-u.ac.jp/>

TEL: 042-580-8224(情報管理課総務係), 8247(情報サービス課企画係)

FAX: 042-580-8232(情報管理課), 8251(情報サービス課)

